# SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	西山佳祐	学校名	堺市立東百舌鳥小学校
実施学年	4年	教 科	国語
単元名	「友情のかべ新聞」		

## ≪学びを深めたいポイント≫

これまでの文学的教材の読み取り観点(登場人物、主役、対役、場面、心情、情景描写、モチーフ、主題など)を意識しながら、個人で解決したい問いを発表ノートに記入させた。問いを書いた時点で、みんなでそれぞれの問いを見られるようにすること(みんなの作品)で、問いが立てられない児童や、より深い問いを設定したい児童のヒントとなったように感じた。

さらに個人やグループでそれぞれの問いを解決していくことで、「個別最適な学び」に近付いていったように思う。最後は、発表ノートのデータを提出、問いに対する答えのズレがあるものを全体で確認して、全体討論を行うことで「協働的な学び」を意識することができた。

最後は、作品を読んで「面白かったこと」「その理由」を発表ノートで提出、これも作品箱に入れて、評価カードで互いにコメントを付け合うことで、友だちの意見に触れる機会を設定できた。

### 《SKYMENU 活用のポイント》

#### ○問い解決シート(発表ノート)の活用

- →問いを立てた時点で、「みんなの作品」に入れて、互いに問いを確認/修正できるようにした。
- →問いを解決していく段階でも、発表ノートを用いることで書く作業に抵抗感をもっている児童もスムーズに取り組めることができた。
- →タイピングに課題を感じている児童は、ノートに書いたものを発表ノートに貼り付けて提出も可とした。
- ○「面白かったこと」「その理由」交流シート(発表ノート)の活用
- →作品を学習して「面白かったこと」「その理由」を発表ノートに記入して、「みんなの作品」に入れることで他社 参照ができる状態をつくることができた。
- →それぞれの感想にコメントを付けさせたことで、友だちのシートを読む機会を設定できた。

# 《実践内容》 問いを解決する時間を紹介します。

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導	○それぞれが作品を読んで、考え	○発表ノートに問いを記入して、作品	○問いを立てるのが難しい児
	たい問いを設定する。	箱に入れる	童は、作品に入っている発表ノ
入			ートを参考にする
展	○個人やグループで教科書を読	○問い解決シートに記入していく。	○それぞれのステップごとに打
	みながら、問いを解決していく。		ち込むスペースを分けること
開			で、作業してすくしている
	問いを解決する前に問いに対す		
	る予想を書くようにする		○発表ノートに評価基準も掲
			載して、児童に見通しをもたせ
	問いを解決する際は、教科書の文		ている
	章を考えの根拠にする		
	問いに対する答えだけでなく、友		
	だちの意見も入れるように促して		
	\'<		
ŧ	○振り返りを記入する	○発表ノートに振り返りを記入してい	○誰と、どのような学びをした
۲		<.	のかを別々に記入できるスペ
め			一スを作って作業しやすくして
			いる

# ≪実践を振り返って≫

問いを立てる場面で、互いの問いを見られるようにしたことで、考えることに困り感をもっている児童も問いを立てることができた。また、問いを解決するシートを発表ノートにすることで、書くことに困り感をもっている児童も取り組むことができた。さらに問いに対する自分なりの答えを作品箱で共有する中で、答えのズレを子ども達が認識して、全体討論へと学びを発展させることができた。

単元の最後に実施した「面白かったところ」「その理由」も発表ノートでの提出にすることで、互いにヒントにして書き合ったり、コメントを付けたりすることができた。

